

## 近畿大学医学部、アストラゼネカ 共同研究チーム 「前立腺がん」治療薬開発への新たな一歩！

近畿大学医学部泌尿器科学教室（教授：植村天受）は、平成 28 年（2016 年）10 月 1 日 AstraZeneca PLC（本社：英国ケンブリッジ、最高経営責任者：パスカル・ソリオ、以下「アストラゼネカ」）と、新薬開発に向けた共同研究に関する基本契約を締結しました。

### 【本件の背景】

日本における前立腺がんの罹患数は、高齢化や食生活の変化に伴い増加の一途をたどっており、平成 32 年（2020 年）には男性のがん罹患率 1 位になる事を予測した報告もあります。

前立腺がんにはいくつかの治療選択肢があるものの、更なる選択枠を満たす治療薬の開発が待ち望まれています。近畿大学医学部とアストラゼネカは、こうしたニーズを踏まえ、2012 年より治療薬開発に向けた共同研究を進めて参りましたが、プロジェクト毎に個別契約を締結しており、手続きの煩雑さと締結に至るまでの時間が課題となっていました。

この度の基本契約は、双方の契約事務手続きを簡略化し、共同研究をより効率的に促進することを目的に締結したもので、これにより、前立腺がんにおける新薬開発へのさらなる貢献が期待されています。

### 【共同研究内容について】

当研究室では以前より積極的に前立腺がんの研究を行い、ヒト前立腺がんの自然史と極めて類似したマウス前立腺がんモデルを開発しました。研究チームは、このマウスモデルを用いた多くの実験を行い、様々な学会で成果を発表し国内外から高い評価を受けています。



### 【研究者紹介】

近畿大学医学部泌尿器科学教室 教授 植村天受  
専門：泌尿器腫瘍学

「数年前よりデベラスコ・マルコ主任（近畿大学医学部ゲノム生物学教室）が中心となり、共同研究を行っており、順調かつ着実に前進してまいりました。基本契約の締結により、アストラゼネカ社との共同研究が加速され、前立腺がん患者様に希望を与える新薬開発が一層進展することを期待しています」とコメントしています。